

Stage7

The Silver Box

銀の箱

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すのといいでしょう。

- ・表紙と裏表紙を見ましょう。この本にどんなことが書かれているかヒントが見つかります。
- ・2 ページを見て、この本に出てくる人たちを確認しましょう。他のページをパラパラとめくって絵を見てください。
- ・お子さんにこんな質問をしてみましょう：
 - この本はどんなことが書かれていると思う？
 - 銀の箱にはどんなものが入っていると思う？
 - この話に出てくる人たちにどんなことが起こるかな。

自分のスピードでこの話を読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

charity チャリティー、慈善行為

friend 友だち

secret 秘密

silver 銀

exciting おもしろい

micro とても小さな

[p. 1]

銀の箱

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

やあ、ぼく、マックス。これはぼくの友だちの……

キヤット

タイガー

アント

これは、ぼくがどうやって銀の箱を見つけたかという話です。その箱の中には……

ごめんね！ つづきは読んでください！

[p. 3]

マックスは退屈でした。マックスは買い物が嫌いでした。

妹が靴を買うときはさらに買い物が嫌いでした。

でもこの買い物にでかけたことが、マックスの人生を変えたのでした…… 永久に！

[p. 4]

マックスとママはチャリティーショップにでかけました。ふたりはモリーのための本をさがしていました。そのとき、マックスはそれを見つけました……

[p. 5]

マックスは店のいちばん奥の隅にひきつけられたのでした。マックスはチャリティーショップが大好きでした。チャリティーショップは変わったものでいっぱいでした。

[p. 6]

マックスが見つけたものは銀の箱でした。それはとても光沢があって、とてもかっこいいものでした。

[p. 7]

マックスはそれがなんなのか見当もつきませんでした。でもそれを手に入れずにはいられませんでした。

「まあ、だめよ！ マックス、部屋を散らかすガラクタはもうこれ以上はたくさん！」ママは言いました。

[p. 8]

マックスはその日の午前中ずっと、その箱を開けようといろいろやってみました。パズルのようになっているのでしょうか。それとも秘密の暗号があるのでしょうか。

結局、マックスは友だちのキャットに電話をしました。

[p. 9]

キャットとマックスは、公園の古い木の切り株のそばで会いました。その公園はマックスの家の近くでした。

「わあ、かっこいい！」キャットはその箱を見て言いました。でもキャットは箱を開けられませんでした。

[p. 10]

「だれかパズルが得意な人さえ知ってたらなあ」マックスは言いました。

「わたし知ってる」キャットが言いました。「連れてくるね！」

キャットはブランコまで走って行って、恥ずかしがり屋の男の子を連れてもどってきました。

「この子はアント」キャットは言いました。

[p. 11]

「やあ、アント」マックスが言いました。「この箱を開けられるかな？」

「たぶんね」アントは言いました。「やってみるよ」

[p. 12]

アントはなにかをひねって、なにかを引っぱりました。すると、不意に……

「わあ！」3人は息をのみました。

[p. 13]

「中にメモがあるわ」キャットが言いました。「なんて書いてある？」
マックスはその紙切れに手を伸ばしました。マックスはそのメモを読みました。
＜秘密を守れば、身が守られる。＞
マックスは急にこわくなると同時にわくわくしてきました。

[p. 14]

そのとき、銀の箱が、マックスの手からうばい取られました。
「ねえ、ちょっと見せてよ！」声がしました。
それはタイガーでした。タイガーはマックスのクラスの男の子でした。タイガーは赤い時計を取り出して手にはめました。タイガーはボタンを押しました。

[p. 15]

「こうやったらどうなるのかなあ……」タイガーは言いました。
「気をつけてよ！」マックスはさげびました。
でも遅すぎました。タイガーは……姿を消しました！

[p. 16]

「いまの見た？」キャットはそう言って、目を大きく見開きました。「タイガーはどこ？」
マックスはショックのあまり話せませんでした。マックスはその箱をひろい上げました。
「見て！ 黄色の時計が光ってるよ」

[p. 17]

「なにか聞こえるよ」アントが言いました。「だれかが叫んでるみたい」
「うん、でも遠く離れたところからだわ」キャットが言いました。
3人はみんな固まってしまいました。小さなタイガーが3人に手を振っていました。「見て！ タイガーがすごく小さくなってる！」マックスが大きな声で言いました。

[p. 18]

突然、タイガーは元の大きさに戻りました。
「すごくカッコイイじゃない！」キャットが言いました。「どうやってやったの？」
「わかんないよ！」タイガーは笑いながら言いました。「それをねじっただけなんだ。マックスも試しにやっごらんよ」
マックスはほかの2人を見ました。

[p. 19]

マックスは時計を手にとり、それをねじりました。大きなエックスの形が時計の画面で光りました。
マックスがそのエックスを押すと……

[p. 20-21]

ほかの3人も同じことをしました。4人はこれまでまったく知らなかったマイクロ・ワールドの探検をはじめました。そこはほんとうにワクワクするような冒険ができる世界でした。

[p. 22]

その日のあとになって……

マックスは銀の箱の中にあったメモについて考えました。〈秘密を守れば、身が守られる。〉

「ぼくたち、この時計を大切にしなきゃ」マックスが言いました。

「みんなでマイクロ・フレンズになれるね」アントが言いました。

「すごくおもしろいことになりそう！」タイガーが言いました。

[p. 23]

そこでマイクロ・フレンズは協定を結びました。みんなが時計をもつこと。みんな秘密を守ること。みんな安全を守ること。

[p. 24]

そのとき、この先にどんなことが待ちかまえているかを知っていたらよかったのだが……

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・このお話に出てくる人たちについて、ほか他の話を読んだことあるかな？
- ・この本でどんなことがわかった？
- ・子どもたちはこの次、どんな冒険をするだろうと思う？
- ・この本を読んでどんな気持ちになった？

この話をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだてます。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。お子さんに想像力をはたらかせるようにすすめてください！ お子さんは、小さくなれるとしたらどんなことをするでしょう？ どんな冒険をするでしょう？ お子さんがやりたいと思うなら、自分が小さくなった話を文に書いたり、絵に描いたりするといいでしょう。